

WebSAM DeploymentManager

SQL Server 2005 製品版へのデータベース構築手順書

— 第4版 —

目次

目次.....	2
はじめに.....	3
1 SQL Server 2005 製品版へのアップグレード	4
2 SQL Server 2005 製品版へのデータベース(DPM インスタンス)の構築/設定	8
2.1 データベース(DPM インスタンス)の構築.....	8
2.2 データベース(DPM インスタンス)の設定.....	12
2.3 管理サーバ for DPM のインストール	13
3 アンインストール	18
3.1 データベース(DPM インスタンス)のアンインストール.....	18

はじめに

本書は、DeploymentManager(以下、DPM)で SQL Server 2005 製品版を使用するための手順書です。DPM では、管理対象コンピュータの情報などの管理用に Microsoft 社が無償で提供している SQL Server 2005 Express Edition を使用していますが、有償の SQL Server 2005 Standard Edition/Enterprise Edition を使用する方法について説明します。

[対象製品]

- ・WebSAM DeploymentManager Ver5.1 Standard Edition [REVISION:001～004]
- ・WebSAM DeploymentManager Ver5.1 Enterprise Edition [REVISION:001～004]
- ・WebSAM DeploymentManager Ver5.22 for SSC ※

※SigmaSystemCenter、VirtualPCCenter に同梱している製品となります。

ヒント

REVISION は、製品 CD-ROM のラベルに記載しています。

なお、「WebSAM DeploymentManager Ver5.1 アップデートモジュール」(NEC サポートポータル [有償]サイトにて公開)を適用済みの環境については、それぞれ以下のリビジョン相当となります。

- ・WebSAM DeploymentManager Ver5.1 アップデートモジュール(DPM510-001.EXE、DPM_Patch_J.zip)を適用済みの環境:REVISION:002
- ・WebSAM DeploymentManager Ver5.1 アップデートモジュール(DPM510-003.EXE)を適用済みの環境:REVISION:003
- ・WebSAM DeploymentManager Ver5.1 アップデートモジュール(DPM510-004.ZIP)を適用済みの環境:REVISION:004

なお、本書は、上記の対象製品を x86 OS に構築する場合が対象です。

注意

DPM で SQL Server 2005 製品版を使用する場合は、管理サーバ for DPM は、データベース(DPM インスタンス)と同じコンピュータにインストールしてください。

ヒント

- 本書では、SQL Server 2005 Standard Edition/Enterprise Edition を「SQL Server 2005 製品版」と表記します。
- 本書で説明しているインストール手順以外は、ユーザーズガイドを参照してください。
- 新しいユーザーズガイドが、製品サイト(以下)に公開されている場合は、製品サイト掲載のユーザーズガイドを参照してください。
 - ・DPM Ver5.1
http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy_win/
 - ・DPM Ver5.22 for SSC
<http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/SigmaSystemCenter/>

ご利用の環境に応じて、以下のいずれかの章を参照してアップグレードを行ってください。

- ・DPM を構築済みの環境でデータベース(DPM インスタンス)を SQL Server 2005 Express Edition から SQL Server 2005 製品版にアップグレードする場合:「1 SQL Server 2005 製品版へのアップグレード」
- ・構築済みの SQL Server 2005 製品版にデータベース(DPM インスタンス)を構築する場合:「2 SQL Server 2005 製品版へのデータベース(DPM インスタンス)の構築/設定」

1 SQL Server 2005 製品版へのアップグレード

本章では、構築済みのデータベース(DPM インスタンス)を SQL Server 2005 Express Edition から SQL Server 2005 製品版にアップグレードする手順について、説明します。

注意

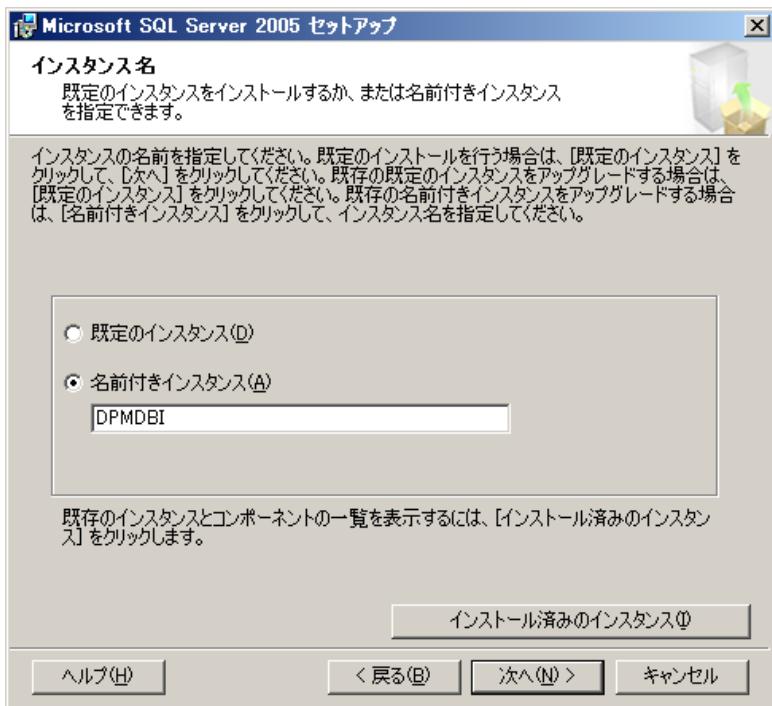
- DPM Ver5.22 for SSC を使用している場合は、SigmaSystemCenter のインストレーションガイドを参照してください。
- SQL Server 2005 製品版へアップグレードを行う前に、以下の URL を参照してアップグレードについての注意事項を確認してください。
[http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393\(SQL.90\).aspx](http://msdn.microsoft.com/ja-jp/library/ms143393(SQL.90).aspx)

- (1) データベース(DPM インスタンス)がインストールされたコンピュータに、管理者権限を持つユーザでログオンします。
- (2) 「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「管理ツール」→「サービス」を選択します。
- (3) 「サービス」画面が表示されますので、表示されたサービスの一覧から「DeploymentManager」で始まる名前のサービスをすべて停止します。
- (4) SQL Server 2005 製品版の CD(1 枚目)、または DVD を(DVD/CD-RW)ドライブにセットします。インストーラの画面が自動起動した場合は終了してください。
- (5) コマンドプロンプトを起動し、カレントフォルダを(DVD/CD-RW)ドライブ配下の以下のフォルダに移動します。
 - ・CD の場合 : ルート直下
 - ・DVD の場合 : 「Servers」フォルダ
- (6) 以下のコマンドを実行して、「インストールするコンポーネント」画面まで、表示される画面に従って操作を進めてください。
start /wait setup.exe ADDLOCAL=SQL_Engine INSTANCENAME=DPMDBI UPGRADE=SQL_Engine SKUUPGRADE=1

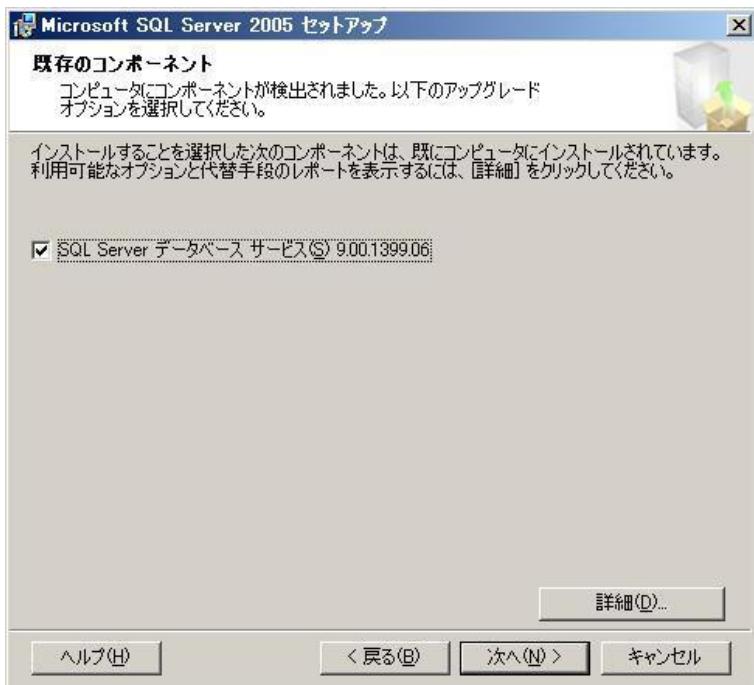
- (7) 「インストールするコンポーネント」画面で、「SQL Server データベース サービス」にチェックを入れて、「次へ」ボタンをクリックします。



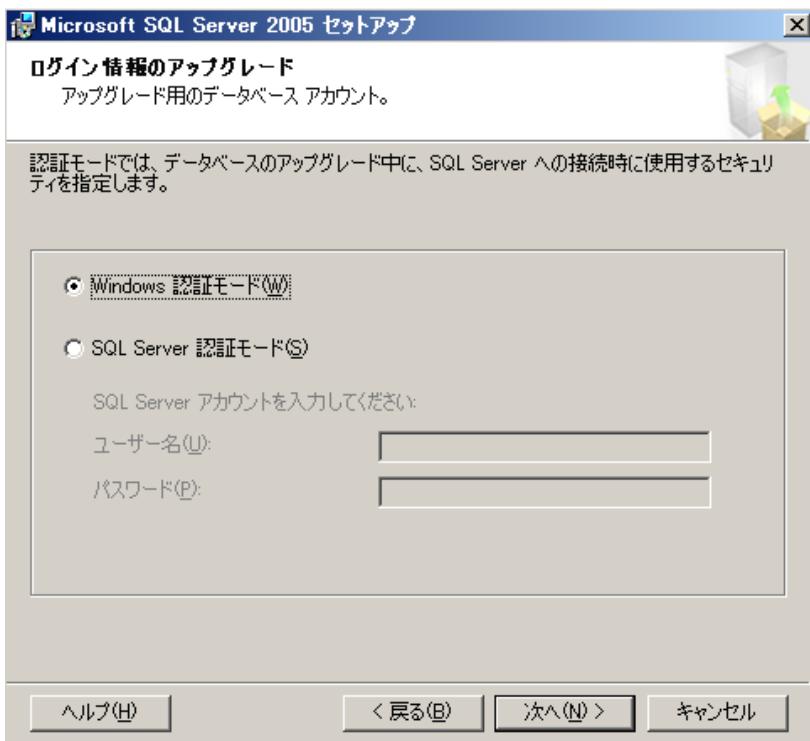
- (8) 「インスタンス名」画面で、「名前付きインスタンス」に「DPMDBI」と入力して、「次へ」ボタンをクリックします。



(9) 「既存のコンポーネント」画面で、「SQL Server データベース サービス」にチェックを入れて、「次へ」ボタンをクリックします。



(10)「ログイン情報のアップグレード」画面で、「Windows 認証モード」を選択して、「次へ」ボタンをクリックします。



(11)「Microsoft SQL Server 2005 セットアップの完了」画面で、「完了」ボタンをクリックします。

(12)(3)で停止したサービスを全て開始します。

以上で、SQL Server 2005 製品版へのアップグレードは完了です。

注意

DPM は、SQL Server 2005 Service Pack 2 以降をサポートしています。

SQL Server 2005 製品版へのアップグレードが完了した後に、Microsoft社のサイトから Service Pack 2 以降をダウンロードして、対象のインスタンスに適用してください。

2 SQL Server 2005 製品版へのデータベース(DPMインスタンス)の構築/設定

本章では、構築済みの SQL Server 2005 製品版にデータベース(DPM インスタンス)を構築/設定する手順について、説明します。

注意

「2.1 データベース(DPM インスタンス)の構築」、「2.2 データベース(DPM インスタンス)の設定」を参照してデータベース(DPM インスタンス)を構築/設定した後に、「2.3 管理サーバ for DPM のインストール」を参照して、データベース(DPM インスタンス)と同じコンピュータに管理サーバ for DPM をインストールしてください。

2.1 データベース(DPMインスタンス)の構築

- (1) データベース(DPM インスタンス)を構築するコンピュータに、管理者権限を持つユーザでログオンします。
- (2) ユーザーズガイド 導入編 「2.2.2 データベースのカスタムインストール」を参照して、.NET Framework と、.NET Framework 日本語 Language Pack をインストールします。
 - ・DPM Ver5.1(REVISION:001～003)を使用している場合：
「インストール方法の選択」画面で「.NET Framework 3.0」にチェックを入れることで、.NET Framework 3.0 と、.NET Framework 3.0 日本語 Language Pack Service Pack 1 のインストールを行います。
 - ・DPM Ver5.1(REVISION:004)、Ver5.22 for SSC を使用している場合：
「インストール方法の選択」画面で「.NET Framework 3.5」にチェックを入れることで、.NET Framework 3.5 と、.NET Framework 3.5 日本語 Language Pack Service Pack 1 のインストールを行います。

ヒント

- REVISION は、製品 CD-ROM のラベルに記載しています。
- データベース(DPM インスタンス)を構築するコンピュータに.NET Framework (2.0 以上)が既にインストールされている場合は、改めて本手順にてインストールし直す必要はありません

- (3) SQL Server 2005 製品版の CD(1 枚目)、または DVD を(DVD/CD-RW)ドライブにセットします。

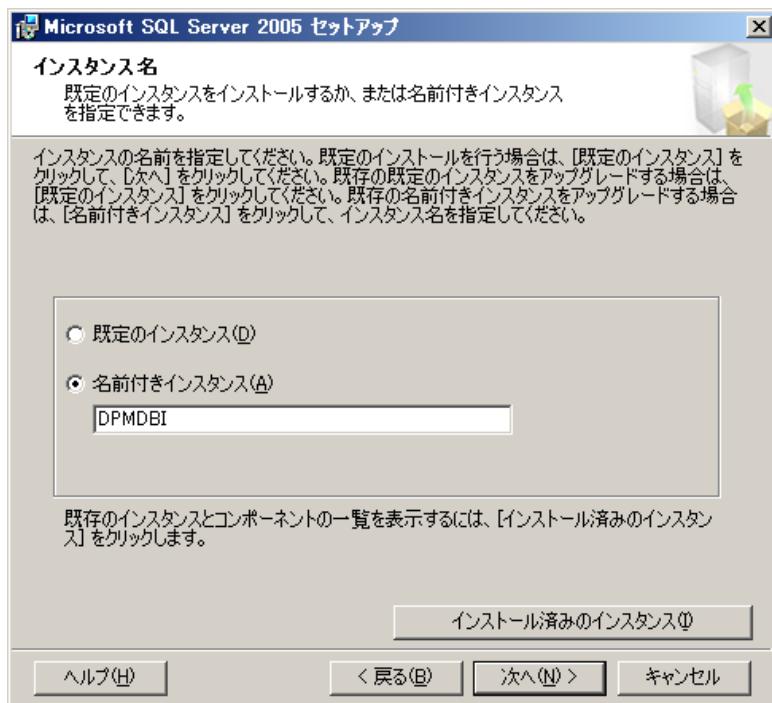
- (4) 以下の画面が表示されますので、「サーバーコンポーネント、ツール、Books Online、およびサンプル」をクリックしインストールを開始します。「インストールするコンポーネント」画面まで、表示される画面に従って操作を進めてください。



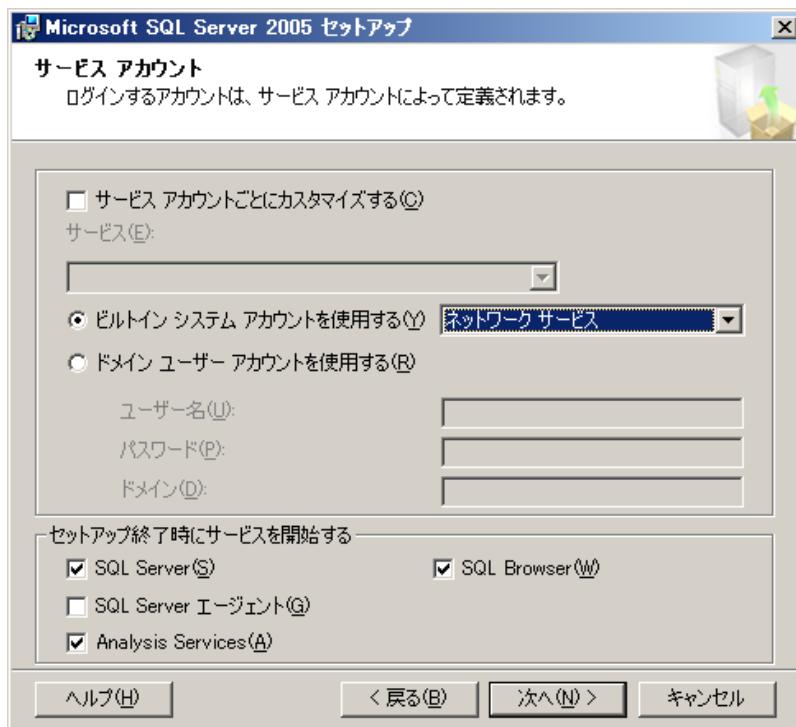
- (5) 「インストールするコンポーネント」画面で、「SQL Server データベースサービス」にチェックを入れて「次へ」ボタンをクリックします。



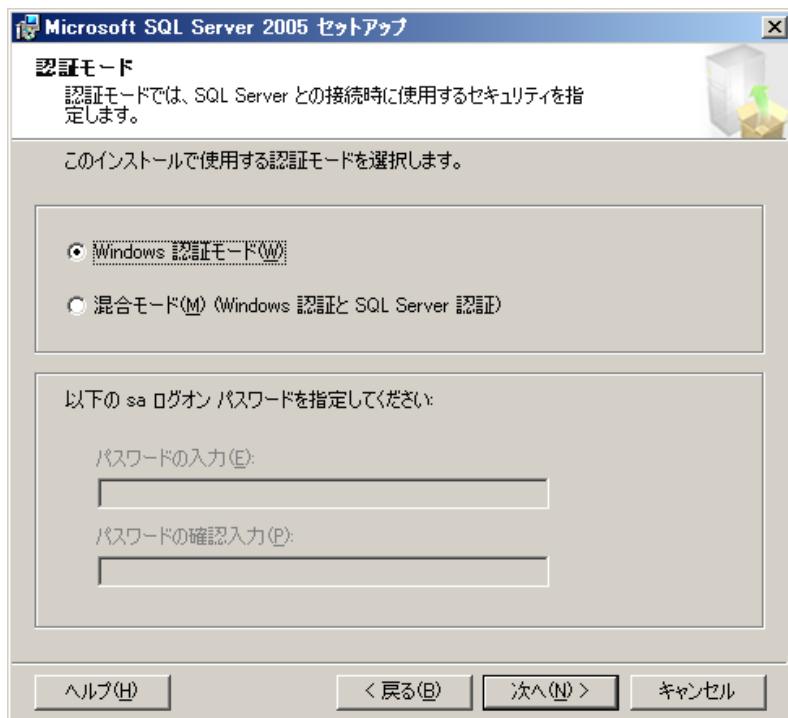
- (6) 「インスタンス名」画面で、「名前付きインスタンス」を選択した後に「DPMDBI」と入力して、「次へ」ボタンをクリックします。



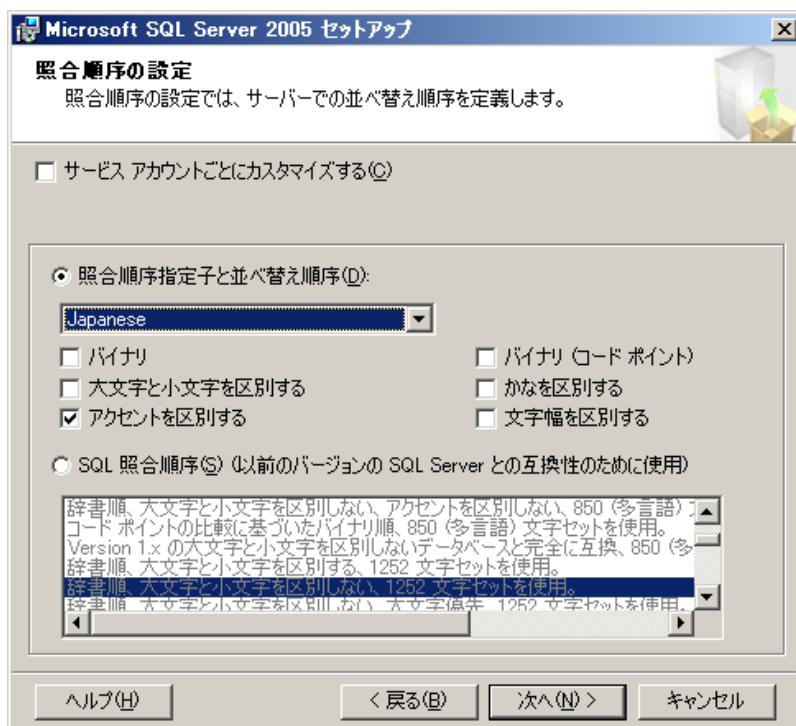
- (7) 「サービス アカウント」画面で、「ビルトイン システム アカウントを使用する」を選択した後に、「ネットワークサービス」を指定して「次へ」ボタンをクリックします。



(8) 「認証モード」画面で、「Windows 認証モード」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



(9) 「照合順序の設定」画面で、「照合順序指定子と並べ替え順序」を選択した後に、「Japanese」を指定して「次へ」ボタンをクリックします。



(10) 残りの項目は既定値のままで問題ありませんので、「次へ」ボタンをクリックしてインストールを進めてください。

(11) 「Microsoft SQL Server 2005 セットアップの完了」画面で、「完了」ボタンをクリックします。

以上で、データベース(DPM インスタンス)の構築は完了です。

注意

DPM は、SQL Server 2005 Service Pack 2 以降をサポートしています。

データベースの構築が完了した後に、Microsoft社のサイトから Service Pack 2 以降をダウンロードして、対象のインスタンスに適用してください。

2.2 データベース(DPMインスタンス)の設定

(1) 「スタート」メニュー→「ファイル名を指定して実行」を選択して、「名前」に「regedit」を入力した後に「OK」ボタンをクリックします。

注意

レジストリエディタの使い方を誤ると、深刻な問題が発生することがあります。レジストリの編集には十分に注意してください。

(2) 以下のレジストリの「データ」の値の中で、「**x**」の箇所に記載されている数値を確認してください。

- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server\DPMDBI\Setup
- 名前 : SQLPath
- データ : (SQL Server 2005 製品版インストールフォルダ)\MSSQL.**x**\MSSQL

例) データ : C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.**2**\MSSQL

(3) 以下のレジストリを追加します。「**x**」の箇所には、(2)で確認した数値を記入してください。

- キー : HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\DeploymentManager_DB
- 名前 : DBInstallDir
- データ : (SQL Server 2005 製品版インストールフォルダ)\MSSQL.**x**\MSSQL\DATA

例) データ : C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.**2**\MSSQL\DATA

(4) コマンドプロンプトを起動して、下記コマンドを実行します。

```
osql.exe -n -E -S "localhost\DPMDBI" -i "<CD-ROM>:\Setup\DB\db_install.sql" -o "C:\temp\DBInst.log"
```

ヒント

「C:\temp\DBInst.log」は、ログファイルの出力先です。任意のファイルパスを指定してください。

(5) (4)で作成した「DBInst.log」に下記のような情報が出力されていれば、データベースの設定は完了です。

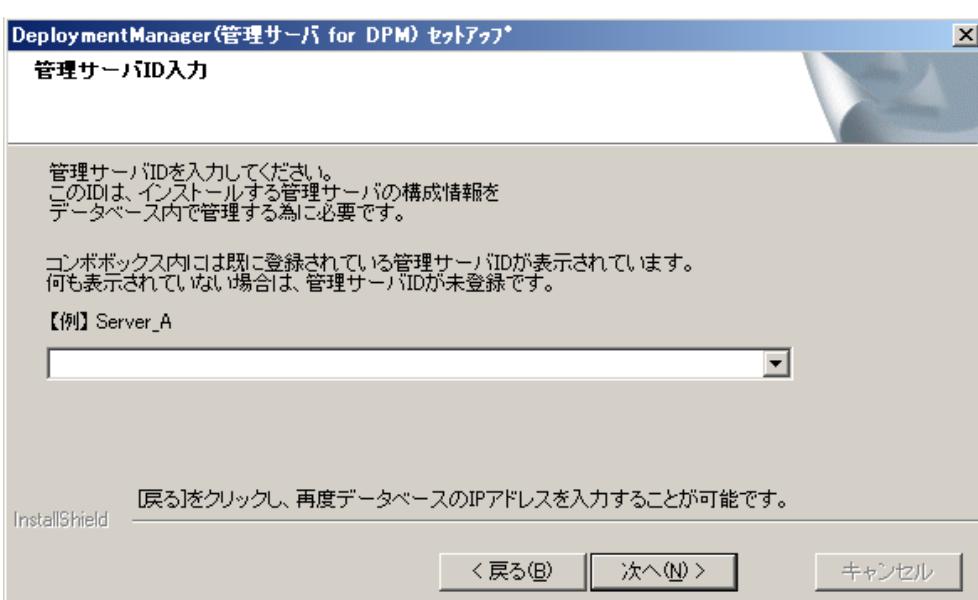
```
-----
NULL
(1 行処理されました)
(1 行処理されました)
-----
STATUS CODE:2101

データベース 'DPM' の 232 ページ、ファイル 1 のファイル 'DPM' を処理しました。
データベース 'DPM' の 7 ページ、ファイル 1 のファイル 'DPM_LOG' を処理しました。
BACKUP DATABASE により 239 ページが 0.369 秒間で正常に処理されました (5.286 MB/秒)。
-----
0
```

以上で、データベースの設定は完了です。

2.3 管理サーバ for DPMのインストール

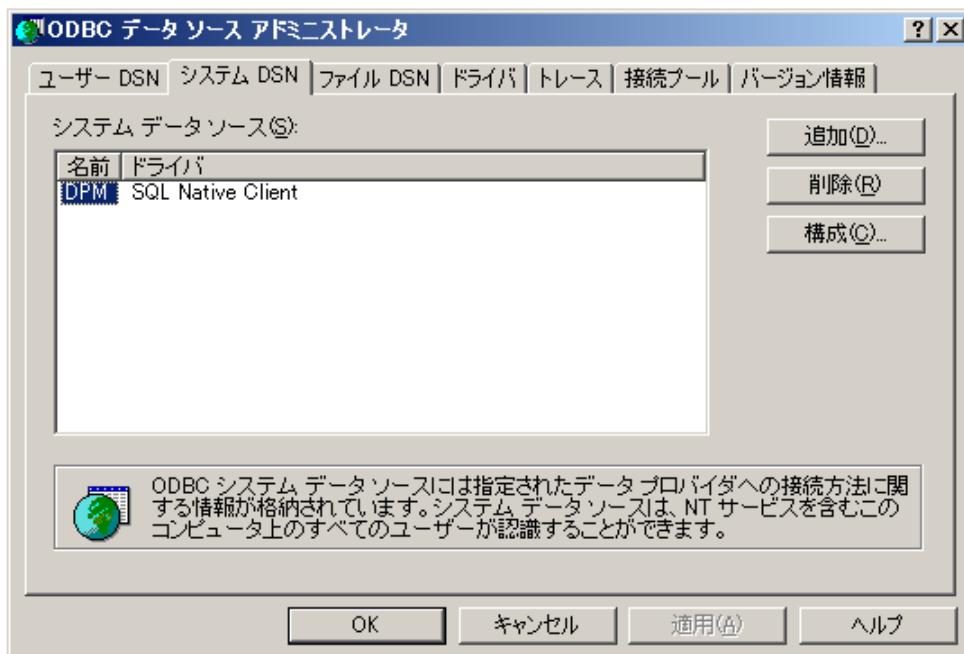
- (1) ユーザーズガイド 導入編「2.3.1 管理サーバ for DPM の標準インストール」を参照して、「データベースサーバ IP アドレス入力」画面まで、インストールを進めてください。
- (2) 「管理サーバ ID 入力」画面が表示されます、この画面を表示している状態で、(3)から(10)の手順に従って DSN の設定を行ってください。



(3) コマンドプロンプトを起動して、以下のコマンドを実行してください。

odbcad32.exe

(4) 「ODBC データ ソース アドミニストレータ」画面が表示されますので、「システム DSN」タブを選択します。「システム データ ソース」一覧で「DPM」を選択した後に「削除」ボタンをクリックして、「DPM」システムデータソースを削除します。



(5) 続けて、「追加」ボタンをクリックします。

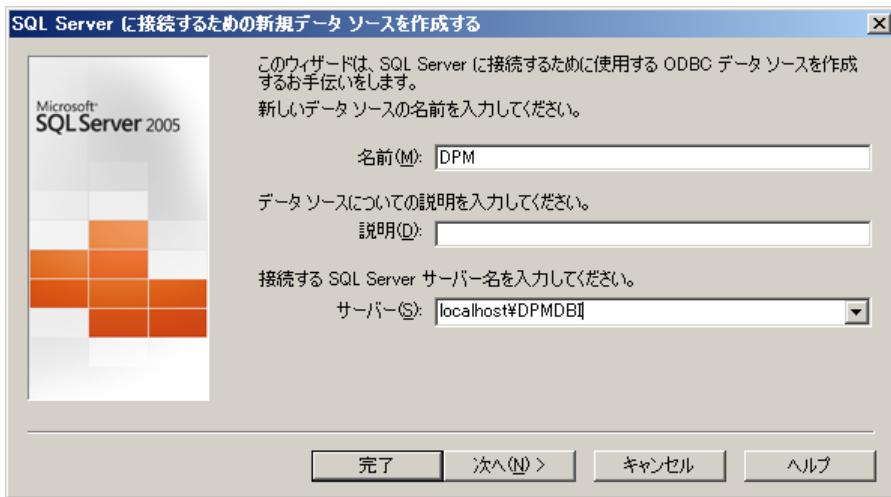


(6) 「データ ソースの新規作成」画面が表示されますので、「SQL Native Client」を選択した後に「完了」ボタンをクリックします。



(7) 「SQL Server に接続するための新規データソースを作成する」画面が表示されますので、以下の項目を設定して、「次へ」ボタンをクリックします。

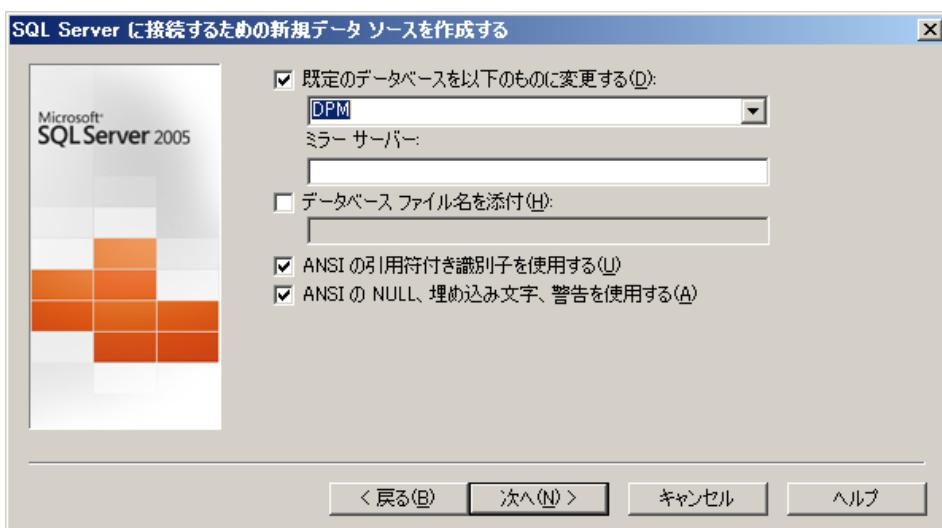
- ・「名前」:「DPM」と入力する
- ・「サーバー」:「localhost\DPMDBI」を選択する



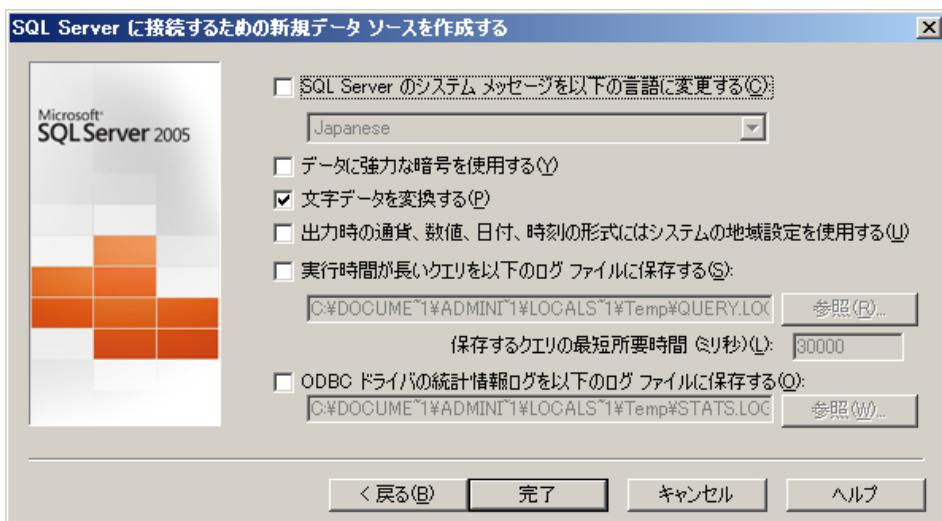
(8) 以下の画面が表示されますので、「統合 Windows 認証を使う」を選択して「次へ」ボタンをクリックします。



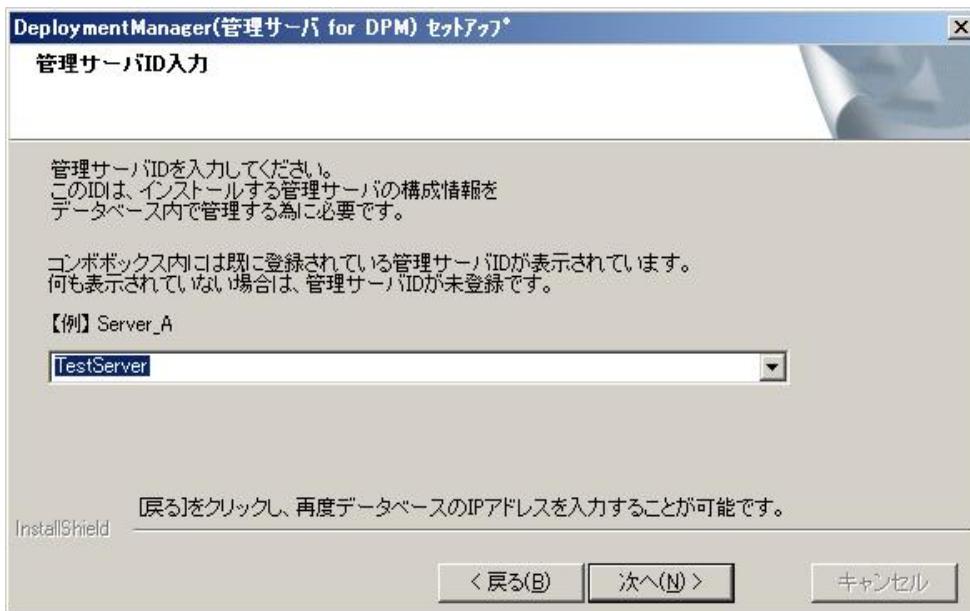
(9) 以下の画面が表示されますので、「既定のデータベースを以下のものに変更する」にチェックを入れて、既定のデータベースを「DPM」に変更後に「次へ」ボタンをクリックします。



(10) 以下の画面が表示されますので、「完了」ボタンをクリックします。



(11)「DeploymentManager(管理サーバ for DPM) セットアップ」ウィザードの「管理サーバ ID 入力」画面に戻って、サーバ ID に任意の値を入力して「次へ」ボタンをクリックします。



(12)「InstallShield Wizard の完了」画面が表示されますので、「完了」ボタンをクリックして、コンピュータを再起動してください。

以上で、管理サーバ for DPM のインストールは完了です。

3 アンインストール

本章では、前述のインストール手順でインストールした各コンポーネントをアンインストールする場合の手順について、説明します。

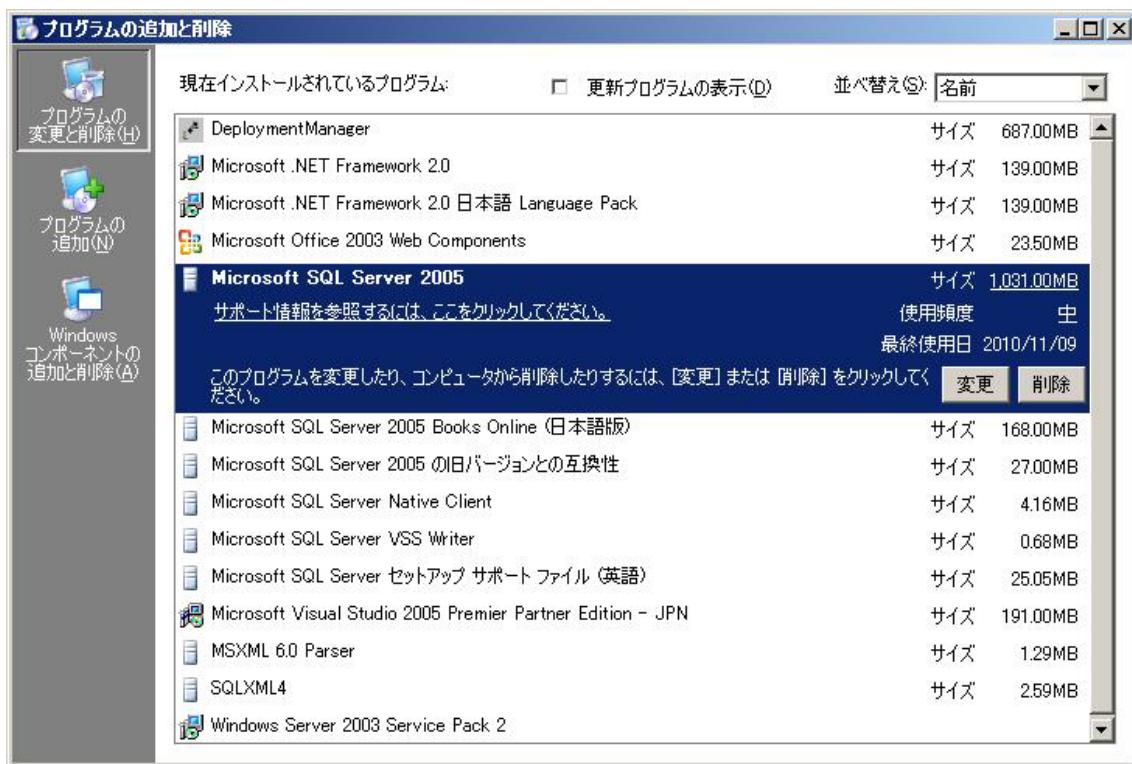
- データベース以外のコンポーネントについては、ユーザーズガイド 基本操作編「21. DPM のアンインストール」を参照して、アンインストールしてください。

なお、JRE/Tomcat のバージョンは、本手順にてインストールしたバージョンに適宜読み替えて作業してください。

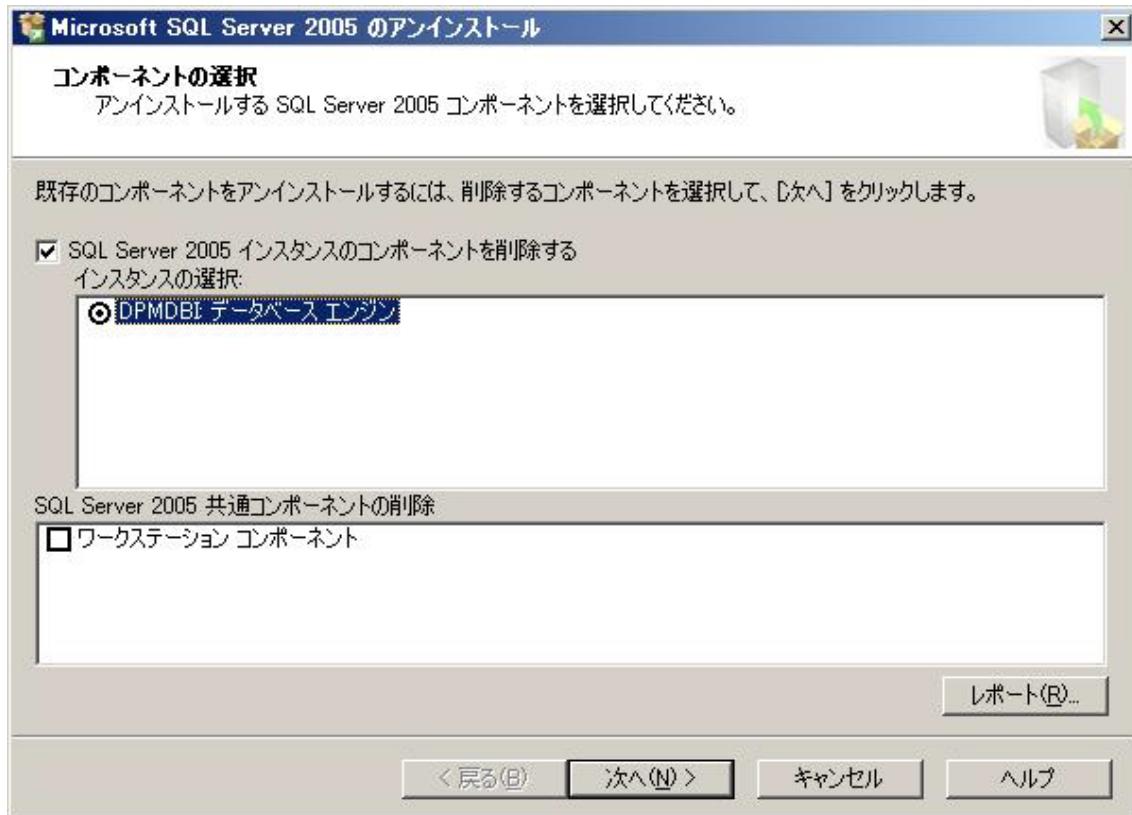
3.1 データベース(DPMインスタンス)のアンインストール

- (1) データベース(DPM インスタンス)が構築されたコンピュータに、管理者権限を持つユーザでログオンします。
- (2) 「スタート」メニュー→「ファイル名を指定して実行」を選択して、「名前」に「regedit」を入力して、「OK」ボタンをクリックします。
- (3) 以下のレジストリの「データ」の値と「x」の箇所に記載されている数値を確認します。
 - キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Microsoft\Microsoft SQL Server\DPMDBI\Setup
 - 名前: SQLPath
 - データ:(SQL Server 2005 製品版インストールフォルダ)\MSSQL.x\MSSQL
 - 例) データ:C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\MSSQL
- (4) 「スタート」メニュー→「コントロールパネル」→「プログラムの追加と削除」をクリックして、「プログラムの追加と削除」を起動します。

- (5) 「Microsoft SQL Server 2005」を選択し「削除」ボタンをクリックして、Microsoft SQL Server 2005 のアンインストールプログラムを起動します。



- (6) 「Microsoft SQL Server 2005 のアンインストール」の画面で、「DPMDBI データベースエンジン」をチェックして、「次へ」ボタンをクリックします。



- (7) 「Microsoft SQL Server 2005 のアンインストール」の確認画面で、アンインストールする「データベースエンジン:DPMDBI」を確認して、「完了」ボタンをクリックします。
- (8) 「スタート」メニュー→「ファイル名を指定して実行」を選択して、「名前」に「odbcad32」を入力した後に「OK」ボタンをクリックします。
- (9) 「ODBC データソースアドミニストレータ」の画面で、「DPM」を選択して、「削除」ボタンをクリックします。



- (10) 以下の確認画面で、「はい」ボタンをクリックします。



- (11) 「スタート」メニュー→「ファイル名を指定して実行」を選択して、「名前」に「regedit」を入力した後に「OK」ボタンをクリックします。

- (12) 以下のレジストリのキーが存在しないことを確認してください。以下の「x」は手順(3)の「x」と同じ数字となります。
- ・キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server\DPMDBI
 - ・キー:HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server\MSSQL.x

- (13) 手順(3)で確認したレジストリの「データ」値の配下のフォルダをすべて削除します。

- ・キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Microsoft SQL Server\DPMDBI\Setup
- ・名前: SQLPath
- ・データ:(SQL Server 2005 製品版インストールフォルダ)\MSSQL.x\MSSQL
- 例) データ:C:\Program Files\Microsoft SQL Server\MSSQL.1\MSSQL

(14)以下のレジストリキーを削除します。

- ・キー: HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\NEC\DeploymentManager_DB

以上で、データベース(DPMDBI インスタンス)のアンインストールは完了です。